

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.
57

2018 弥生・卯月

特集

「質実剛健な未来志向」

——未来に目を向け、
今を生きる道院

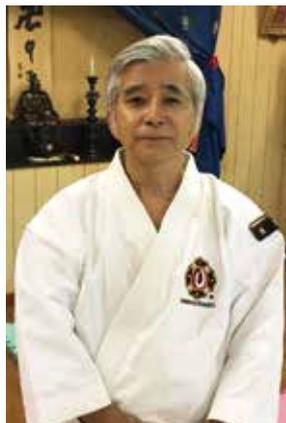


「質実剛健な未来志向」

未来に目を向け、今を生きる道院

担当／飯野貴嗣

日に日に穏やかな陽気となり、新しい年度を迎える季節となりました。道院でも新しい仲間との出会いがあることでしよう。縁を大切に、
て有意義な一年にしていきたいものです。
そこで今回は、未来に目を向け、今を生きる道院づくりに取り組まれている道院の一つとして、群馬県・渡良瀬道院の石井利直道院長にお話を伺いました。



石井利直道院長

一 転換期

——石井道院長は、渡良瀬道院の二代目道院長ですね。

石井 ええ。初代道院長は、新井庸弘先生(前・一般財団法人少林寺拳法連盟会長)です。新井先生が本山を下りられてから、ほどなくご出身の桐生に渡良瀬道院を開設(1976年)されました。私は成城大学少林寺拳法部の二期生で、少拳士二段の許可を受け、卒業後は故郷の群馬に帰っていました。そんな折、新井先生が渡良瀬道院を開設されたこと

を聞き、そこで修行を再開させて

いただいたのです。道院開設の3か月後でした。それから3年3か月ほどたつたころ開祖が急逝され、新井先生が山に戻ることに、その後任として私に白羽の矢が立ったのです。

——何かの縁だったのでしょうか。

石井 新井先生が開いた道院を絶対に潰すわけにはいきませんから、覚悟しました。

——1981年に二代目道院長に就任され36年ですが、この間、心境の変化もあったのではないのでしょうか。

石井 そうですね。例えば、拳士の意欲を高めるために、大会で一定の成績を収めることを重視していた時期があり、当時の人からは「怖かった」と言われましたが、実際そうだったのでしょうか。でも、大会で成績を収めることよりも、もっと幅を持って「人」として育てていくこと

に指導方針が変わっていったのです。

——その「転換期」はいつごろでしたか？

石井 ここ10年くらいでしょうか。それまでは、人数を維持したい、大会でよい成績を残せてあげれば拳士たちも自信がつく、と考えていたのでしょうか。

——「人として育てる」ということに指導の軸足が切り替わっていったのですか。

石井 ええ。ですから、今は怒ることがなくなりました。まあ、子供たちからは「厳しい存在」なのかもしれませんが、決して「怖がられる存在」ではないですね。

二 教え方を変える、指導者が変わる

——個々の可能性を引き出すということで、例えば技の指導面で重視し

ているところはいかがでしょうか？

石井 技の土台となる「基本」の習熟です。体幹の使い方、足の捌き(さば)など、基本に十分時間をかけ、一つの動きを丁寧に繰り返し返します。特に、少年拳士への指導では、「①見せて」↓「②教えて」↓「③やらせて」↓「④できなければ教え方を変えて」↓「⑤できたら褒める」という原則を大切にしています。



原則にそって指導する

——その子がイメージしやすい教え方を指導者側が工夫する、ということなのですね。

石井 ええ。また、新人門には私が1か月間マンツーマンで指導します。まだ何にも染まっていない真っ白な状態のときに、基本の基本を伝えることが大切ですからね。

——開祖もおっしゃっていたことですね。一般拳士への技術指導で工夫されているところはいかがでしょうか？

石井 一般拳士では、二人で正対し、まず「拔手」、それから「逆のつ



左右交互に繰り返し、感覚を養う

くり」の部分だけを、左右交互に何度も繰り返す修練を行います。

——これは、微妙で繊細な感覚を養うのに非常にいいですね。

石井 下半身と体幹と四肢が連動していないと、互いの力がぶつかり、無理なく抜くことができません。また、逆のつくりでは、相手の握る力を感じつつ、捌手さばてと掛手かかての協調した動きを練っていくことができます。

——柔法のコツを会得するのに効果的な修練法ですね。

三 「技」の基本から「生き方」の基本へ

——「教え」の指導ではどのような工夫をされていますか？



法話では「生き方の基本」を説く

石井 法話では、開祖語録の日めくりカレンダーを使用しています。その日に合わせてカレンダーをめくり、日常の出来事につなげて話します。同じことを何度も繰り返し話すものですから、私が話すことを皆すでに分かっているんです(笑)。でも、大切なことは何度も繰り返し話します。それを生き方のヒントにしてもいい。開祖の志を拳士の生き方につなげたい。そう願っています。

——金剛禅の教えは、まさに人としての生き方の基本ですね。

石井 ええ。拳技においては、まず体の使い方方の基本を覚える。次に行動のあり方——例えば、人と相対したときの礼節や、思いやりの態度へと発展させる。そして、そこには金剛禅の教えがあることを説いて、「生き方の基本」へと導いていきたいと思っています。

——少年部の拳士たちを見ていて、「主体性」という言葉が浮かんできたのですが、それはきっと、石井道院長から生き方の基本を教えられていることの表れだったのでしょうかね。石井 少年部では「子供主役」という方針で、太鼓打ち、ストレッチ、鎮魂行の主座などを交代で務めてもらいます。前に出る子供たちは他の子

供たちの手本となりますので、とてもよい経験になっています。

——少年部の皆さんは、物おじするどころか、様になっていますね。



子供たちが交代で主座を務める

四 地域で好評の健康プログラム

——石井道院長は、MC資格(少林寺拳法健康プログラム指導者資格)も取得されていますね。

石井 ええ。お隣の桐生道院にもMC資格を持っている拳士がいて、まず地元桐生から健康プログラムを広めていこうと、地元の公民館で健康講座を設けていただきました。今年(2017年)で3年目になります。これがよい反響でして、お隣の太田市やみどり市の公民館でも講座を開



——活動的ですね。

石井 講座の名称はそれぞれですが、受講される方には、笑顔で楽しんでいただけていますね。また、保育園や幼稚園にもチラシを配布して、保育士さんへの研修の一環として、健康プログラムを提供したいと考えています。

——無理なく体を動かし、その心地のよさが笑顔となり、心も明るくなっていくのでしょうか。

石井 健康プログラムは、「ベーシックプログラム」を基礎としています。その上で指導者のオリジナリティを加えていけるところがいいですね。特に、「二人で行う」ペアトレーニングは好評です。互いに向き合って、呼吸を合わせながら「いち、にーい、さーん……」と動きを合わせていくと、ものすごく気持ちよくなるんです。一人よりも

二人で触れ合い、響き合う。互いに笑顔になれるんです。それが他の健康体操にはない少林寺拳法らしいところだと思います。

——相手の力を感じるとか、ここまです力を加えたら相手が違和感を覚えるという感覚は、対人関係においても共通しますね。

石井 そう思います。ですから、この健康プログラムの楽しさをもっと広げていきたいと思っています。

ふれ愛学級 (2015年から3回)
介護予防教室 (2016年に1回)
健康セミナー (2017年に3回)
市民講座 (2017年に1回)

五 「渡良瀬ファミリー」づくり

石井 あと、もう一つ変えたことといえば、道院の部内演武発表会です。2014年以来、毎年4月29日に道院内の演武発表会

を行っています。従来は大会ですが、それを見に来られるのは、せいぜい保護者まで。ですから、この演武発表会では、近所の人や友達などにも「ぜひおい

皆が参加しやすい行事づくりを



で」と声をかけて、地域の人が見に来れるような呼びかけをしています。発表会の自身は、演武以外にも、拳士のスピーチや絵本の読み聞かせ、また、保護者による健康プログラムの成果発表もあります。

ントは、近くの人がたくさん持っているのですね。

石井 ですから、道院の雰囲気は非常にいいですね。私は、皆がつながることのできる「渡良瀬ファミリー」をつくっていきたくと思っています。

——単に、技術の優劣の発表会ではないところがアットホームですね。

石井 これは私一人が考えたのではないんです。毎月一回幹部会を開いて、幹部からも意見を出してもらいます。また年に一回は保護者懇談会も開き、どうしたら参加しやすいかと意見を言っていたら、一緒に

なって取り組んでいます。皆で意見を出し合い、皆でつくる。これがいいところですね。

——なるほど。道院を盛り上げるヒ

——本日、お話を伺っていて感じたことは、渡良瀬道院には「質実剛健」と「未来志向」の両方が存在しているということなんです。40年という歴史ある道院の中に、基本を尊重し、それを脈々と伝え続けている要素もあれば、時代の変化、環境の変化に柔軟に対応し、外に向けて新しい取り組みを積極的に展開されている要素もある。大事なものは何か、そして変えていくべきところは何か、そこをしっかりと見極めていらっしゃるの

だと感じました。

石井 新しいことにチャレンジするということは、実に楽しいことですから。

——「楽しい」というのは充実感のあらいい言葉ですね。本日は、ありがとうございました。

石井 こちらこそ、ありがとうございました。



開祖語録 ダイジェスト

1980年2月
本部定例昇格考試



われわれがやる少林寺拳法は、指導者をつくるうということから始まったわけです。今から33年前、私がたった一人で、「喧嘩を教えてやるから来い」と言って高校生たちを集めて始めた。そして今、これだけの人が集まるようになった。それはやはり、私がいつも先頭に立って、機関車になって、みんなを引っ張ってきたからです。だからみんなにも、私はいつも言う。君らも機関車になれと。車掌になってはいかん。お客になっちゃ、なおいかん。機関士にもなっちゃいかん。機関車になるということは、機関車は窯が燃えているから走るわけで、だから自分がまず燃えている。そして機関車は、自分が力を持っていて。だから、自分が燃えて、自分が先頭に立って、みんなを乗せて走る。そういう生き方をしようじゃないか。

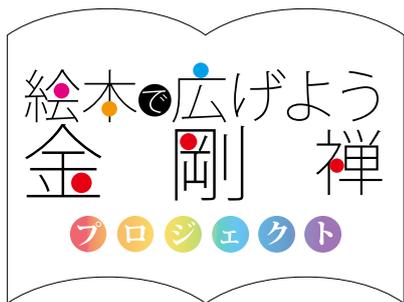
それぞれが機関車になってほしい

私はそれを、ずっと続けてきました。今もです。なぜでしょう。いつ死ぬかわかんからです。諸君も同じだぞ。きょう帰りに、車にはねられて死ぬかもしれない。空から隕石が落ちてきて死ぬかもしれないぞ(笑)。笑い事じゃないんだよ、これは。だから、そのときそのときを一生懸命に、本当に生きてみないか。そうすれば、世の中は必ず変えられる。自分も変わります。これ、間違いありません。

どうぞひとつ、今私が言っていることを、諸君が自分のものとして理解してくれんか。

宗道臣というたった一人の男が、中国から帰ってきて、少林寺拳法を始めた。わずか33年で、これだけのすばらしい建物が建ち、何十万という共鳴者ができて、しかも、これからも無限に広がろうとしているんだぞ。

大勢の人の心に私は呼びかけた。お釈迦さんの教えではあるけれども、己をよりどころにするということを基調として、他人の幸せを願おうではないかと。後継者が育てば必ず残る。この灯は、もう永久に消えることはありません。



読み聞かせをする
道院長夫人

未来へつなげる

大垣道院
道院長 松原 光孝

子供たちの創造性を育てることは、明るい未来へつなげる力になるという思いから、週一回、絵本の読み聞かせを行っております。図書館で、季節やその時々に行事に合った本を選んで借ります。12月は子供たちの好きなクリスマスにちなんで、「もみの木のねがい」「サンタさんからきたてがみ」を、1月は新年にちなんで、「十二支のはじまり」「はつゆめちょうじゃ」などを読みました。

「もみの木のねがい」では、もみの木が、とげのある自分の葉っぱを嫌い、妖精に別の葉に変えてもらうのです

が、最終的には元の自分の葉が一番だということに気づくというお話です。「自分自身を信じること」「私たちは可能性の種子である」「一人ひとりがダーマの分霊を持ったすばらしい存在であること」につながるお話だと思います。

現在は、私と家内の両名が中心となり、読み聞かせを行っています。他の一般拳士や保護者にもこの輪を広げ、子供たちの成長の一助にしていきたいと思ひます。

今回読んだ絵本

◎ もみの木のねがい

再話：エステル・ブライヤー
 ジャニィ・ニコル

訳：おびか ゆうこ
絵：こみね ゆら

福音館書店



ダーマ信仰⇩人間尊重の自覚⇩信念

開祖は、ダーマの認識について、

「宇宙に遍満するいのちのはたらき」として理解し、すべての生きとし生けるものは、その大いなる力に生かされていると信じ、その上で自己の確立、己の価値の発見ということとを主張し、教育し続けてきたが、本当の信仰とはそうでなければならぬ」

と述べられています。

また、その上で、

「信仰なんて言葉を聞いたとたん毛嫌いな人がいるが、人間としての自己の正しいあり方、尊厳を自覚する唯一の道は信仰であり、それは人間尊重を自覚させ生み出す信念でもある」

と述べられています。

これが、私にとってのダーマ信仰の基本となっております。

その上で、人間は誰もが可能性の種子として存在する、という、見方、考え、を持ち、何より大事なことは、具体的な努力や積み重ねがなければ、その種子は育たず、開花結実することはなく、選択の余地は努力次第であり、誰にでも常にあると明言されています。

ダーマ信仰という言葉が、本誌にもよく出てくるようになったのですが、目を向け、気づく人と気づかない人との相違点は、同じ「行」であつても大きな差が生じます。

信仰の確信を得ていない指導者には信念が感じられず、伝えるものも希薄になると思われます。

私は、開祖の言われるダーマ信仰とは、教えに対する自己の気づきであり、共感であり、何より精進である、と示されていることに注視しています。

そして、これが確信から得た自信であり、信仰心であると考えます。

ダーマの大いなる力について、開祖から直接教示を受けた方々は、その意を得るのに、文章ではなく、人から人への心の伝授であつたはずで

もちろん、どのような中でも、すべては自らのことであり、耳を塞ぎ、目を閉じている者には伝わりません。

我々の信仰の中心はダーマだと教典に示されていますし、それを鎮魂行で心に刻んでいます。ダーマ信仰なくして金剛禅は成立しな

いことは、冒頭の開祖のお言葉で明白です。

その上で、われわれの「行」の基本は、鎮魂行と易筋行、心の伝達である法話(教え)に基づいた行としての()にあります。

そして、何より大事なことは、常日頃の生活態度、姿勢にあります。道院での修行と、社会での実践が「行」の基本となり、それを指導者自らが率先垂範することから見直す時期であると自戒しています。

鎮魂行を正確な手順によつて行う習慣をつけ、易筋行としての修練のあり方を見つめ、独善的なものにならず、それらを積み重ね、生活の中にもダーマ信仰を取り入れていくことが重要であるといえます。

71年目のことし、今一度原点を振り返り、道院での修練を見直し、「行」を積み重ねる機会として、ダーマ信仰に向き合いたいと考えています。

多くの方々に叱咤、激励していただける「今」を大切にし、感謝を積み重ね、死ぬまで修行です。

ダーマとともに。

(May the Dharma be with you.)

わたしの 工夫

第5回

道院運営へのヒント……
もって道院の活性化、拳士の
育成につなげていこうという
コラムです。

今回の工夫を
教えてくれたのは……



仙台東道院
吉岡 章 道院長

工夫① 集中力が切れる前に次の指示を出す

人間は誰も「集中力」を持っていますね。でも、その度合いは、子供と大人によって異なります。また、同じ人間



でも、時や場所、また体調などによって変化し、決して一定ではありません。ですから、指導において、拳士たちの表情を全体的に感じ取り、集中力が途切れそうになる前に次の指示を出すことを意識しています。拳士は、私の指示をきっかけに、意識が切り替わり、次のことに集中できるのです。そしてまた、集中力が切れそうになるころを見計らって、次の指示を出します。

このように「拳士の集中力⇒私の指示⇒拳士の集中力⇒私の指示⇒……」ということを段階的に繰り返します。それが、集中力を持続させることにつながります。

ポイントは二つ。一つは、拳士たちの表情、動きなどから、敏感に感じ取るセンサーを磨くことです(=受信)。もう一つは、指示内容を具体的に、かつ的を絞ることです(=発信)。

工夫② 効果的に“指先”を使う

「工夫1」にも関連しますが、私は技術指導や法話を行うとき、話す言葉に合わせて、指先を使うようにしています。具体的には、話の中で、特に強調したい内容のところを、言葉に合わせて人さし指をピンと立てたり、立てる指の本数を増やしたり減らしたり、あるいは指の形や向きを変えたりしながら話すのです。人間の手指は、多様に変形させることができます。特に指先には、何かに触れて感じ取る触覚や、ある方向性を指し示すなどの機能があり、非常に多彩かつ繊細な働きがあります。一方、拳士からすると、視界に私の指先の動きが入ることで、私の話すことに、より注意を向けるようになります。指先を使うということは、あくまでも補助的なものです。しかし、指先の動きを効果的に使うことによって、メッセージ性を高めることができます。ぜひ、参考になさってみてください。



道院長

vol.40

元気の素



阿波市場道院
道院長 藤野 起夫(46歳)

道院での法話の様子



設立のきっかけ

30代半ばに、近隣道院の道院長が怪我で療養中に、道院長代行としてお手伝いをさせても

らったことがターニングポイントになりました。自分の指導によって拳士が一喜一憂する姿を見て、難しいけど、やりがいがあり、おもしろいなどという気持ちになり、「道院長になりたい」という思いが強くなったことを覚えています。

そして現在、当道院が所在する町で活動していた道院が、他の町へ移転することと、声をかけていただきました。

その心意気に応えなければ、ずっと後悔すると思う、同じ後悔するならチャレンジしてからにしようと思ひし、すぐに道院長資格認定研修会を受講しました。

長年思案していたのが嘘のように、決断してから道院開設まで、わずか4か月ほどでした。

何とかなる

道院長に憧れを持っているけれど、背負うモノが大きいため、どうしても、後ずさりしてしまっている人はたくさんいます。

道院長を目指す年代は、職場や家庭でも多忙を極めているところで、それに加えて道院の運営ですから、一歩踏み出すにはかなりの覚悟が必要です。でも、結論からいうと、「何とかなる」ものです。

私が設立を思案しているときに、この言葉を多くの先輩道院長から頂きました。苦難、困難、災難……決して無難な道ではありませんが、「何とかしよう」と前向きに向いていけば、思いもよらぬ良縁ができ、万事うまく進みます。

最近はこの苦境を乗り越えればどんな道が開けるのかと、期待さえ持てるようになりました。「感謝」の気持ちさえ忘れなければ、大丈夫



設立5周年を記念した懇親会にて

です。

道院長になって、自分の人生観は大きく変化しました。もし、チャンスをつかんでいなければ、一生後悔したと思います。

もちろん、これまで一度も後悔したことはありません。チャンスが来たなら、迷わずつかんでみてください！

「何とかなる」

※プロフィールなど、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。

本山 開催報告 (派遣講師)

● 本山公認教区講習会

- 〔2月4日〕千葉教区(鈴木裕)、岡山教区(高辻吉治)
- 〔3月18日〕山口教区(宇都宮俊二)

● 教区研修会

- 〔12月24日〕岐阜県教区
- 〔1月14日〕佐賀県教区
- 〔1月20日〕青森県教区
- 〔1月21日〕茨城県教区、長野県教区、三重県教区、大阪府教区
- 〔1月28日〕埼玉県教区
- 〔2月3日〕東京都教区
- 〔2月4日〕栃木県教区、長野県教区、愛知県教区

● 小教区研修会

- 〔10月1日〕神奈川県横浜第三小教区
- 〔11月19日〕愛知西三河第二小教区
- 〔12月24日〕三重四日市小教区
- 〔12月29日〕神奈川県小田原小教区
- 〔1月10日〕岡山倉敷小教区
- 〔1月15日〕東京第六小教区
- 〔1月21日〕東京第十六小教区、神奈川県横浜第三小教区
- 〔1月28日〕和歌山海南・中紀小教区
- 〔2月4日〕東京第八小教区、神奈川県横浜第一小教区・第二小教区

区、神奈川県西湘第一小教区

〔2月7日〕山形庄内小教区

〔2月11日〕北海道石狩小教区

〔2月25日〕青森南部小教区、静岡県西部第二小教区

● 岩手東水沢道院

道院設立30周年記念祝賀会

10月28日、岩手県南小教区内の道院長の先生方にご臨席を頂き、盛大に岩手東水沢道院設立30周年記念祝賀会を開催することができました。

今回の祝賀会を開催するにあたり、OB、OGにも声かけをして9名が参加してくれました。復帰したいという声もあり、嬉しく思いました。

これを機会に、今後はさらなる道院の発展に邁進していきたいと思います。また、次なる道

院長を育てることも私の役割と使命感を燃やしております。

(道院長・小野栄喜)

● 南部道院

道院設立50周年記念祝賀会

11月25日、紀州南部ロイヤルホテル。待合室からにぎやかな声が聞こえてきます。まるで同窓会のような雰囲気。にぎやかな雑談の後、写真撮影を行い、いよいよ会場に入場。

まず電気が消えてスポットライトを浴びながら模範演武が始まりました。それから三前雅信道院長の挨拶、50年の歴史や日頃のご支援、出席者への御礼の言葉がありました。

みなべ町長・小谷様のご挨拶では、青少年教育に対する感謝の言葉があり、役場の職員の中にも少林寺拳法の経験者が数多く居て、活躍していただいていると語られました。

続いて、南部道院のOBであり、有段者でもある豊田教育長のご挨拶では、高城中学校と上南部中学校の2校で行われている少林寺拳法の授業への評価と感謝のお言葉をいただきました。

歓談中には今は仕事の都合で少林寺拳法から離れているが、子供には少林寺拳法をさせ



たい」という話や、「中学校で孫が少林寺拳法を習っていて感動したよ」という話も聞けました。

設立当時より苦楽を共にしてきた道院長・尾崎副道院長・山下監事それぞれの奥様に、サプライズとして花束の贈呈があり、その後、山下監事の中締めで幕を閉じました。

参加者からは「次は60年。またやってくださいよ」といった声も聞かれ、再会を楽しみに会場をあとにしました。改めて、人間関係のすばらしさ、歴史の重さ、少林寺拳法の力を感じる事ができました。

(道院長・三前雅信)

本山 11月度帰山行事 【帰山道院】

石川山代道院(道院長(以下同)・梅原一幸)、流山北道院

- (渡部晶彦)、東京大塚道院(藤井省吾)、東京目黒道院(久保博)、東京昭島道院(秋山俊之)、川崎柿生道院(諏佐一義)、国立道院(武田俊治)、御殿場道院(瀧口總光)、清水中部道院(山田恵修)、山梨峡南道院(名取俊人)、信州宮田道院(鈴木英仁)、信州望月道院(小林貴志夫)、愛知七宝道院(日比野信和)、愛知浄水道院(山下研治)、名古屋高針道院(遠藤浩克)、松阪西道院(林勝敏)、大垣道院(松原光孝)、京都乙訓道院(奥村真邦)、山科道院(永田憲一)、伏見丹波橋道院(安嶋正悟)、京都修学院道院(永江健将)、大阪一丘道院(松下邦義)、大阪美原道院(三井栄三)、大阪港道院(吉川芳男)、柏原東道院(澤井憲男)、奈良中央道院(今城隆廣)、奈良信貴道院(川口宗勇)、奈良宝来道院(東浦寿成)、奈良片桐道院(米澤和雄)、播磨南道院(吉野雅文)、高砂道院(大内信弥)、高砂南道院(梅里幸治)、西宮津門道院(瀬古智哉)、岡山大福道院(平松義雄)、宇部常盤道院(鈴木義勝)、上宇部道院(藤井郁英)、山口厚狭道院(渡部菜穂)、熊本健軍道院(外川誠一)、唐津西道院(池内一文)

2018年1月度 認証

●新設

京都園部道院

児島 ひかる

法階昇格者

准範士 ■2017年12月10日付

神田 勇二(船橋宮本道院)
道下 英裕(町田道院)

松熊 俊和(東京深川道院)
鈴木 準(逗子道院)

伊藤 直幸(静岡掛川道院)
才津 行弘(大村三城道院)

僧階昇任者

少法師

■2017年11月19日付

原 宏(八戸東道院)
三柴 始(栃木城南道院)
河面 豊光(栃木足利道院)
須藤 安男(埼玉白岡道院)
白濱 雅弘(町田南道院)
中村 袈裟巳(大和一之関道院)
山本 佳廣(甲府南道院)
村岡 肇(山梨峡北道院)
青山 昌伸(各務原東道院)
浅井 昌典(浜松渡瀬道院)
中山 文夫(三重千種道院)
廣田 芳幸(三重桑名道院)
佐々木 正(大阪白鷺道院)

佐藤 定義(大阪旭道院)
森山 廣平(福岡大川道院)

権大導師

■2017年12月1日付

本多 智裕(浦安道院)
石崎 良輔(東京浮間道院)
杉崎 賢一(足柄道院)
室伏 江利子(報徳桜井道院)
杉浦 孝任(三好道院)
中澤 昭則(松阪西道院)

権中導師

■2017年12月1日付

佐藤 正則(盛岡中部道院)
重茂 雅宏(盛岡仁王道院)
社 幸一(気仙沼道院)

佐藤 裕一(山形中部道院)
岡 祐介(福島桑折道院)
山本 隆一(杉並永福道院)
栗原 大樹(横浜戸塚道院)
佐々木 京一(横浜星川道院)
小林 晋(津中央道院)
林 真弘(川西南道院)
山本 由佳(明石東道院)
亀井 健士(徳島渭東道院)
高橋 良幸(高松木太道院)
三宅 正章(高松木太道院)
大西 修一(坂出専修道院)
十川 真悟(坂出専修道院)
浦田 稔(坂出専修道院)
藤本 正二(丸亀飯野道院)

お布施

布施

- | | |
|---------------------------------------|---------------------------|
| ▷カンボジア・ベトナム監督、東京大塚道院 藤田 昌彦…1,000,000円 | ▷梅津道院 岡 寛……………10,000円 |
| ▷埼玉早瀬道院 林 昌幸……………50,000円 | ▷備後新市道院 信岡 忠士……………10,000円 |
| ▷栃木城南道院 三柴 始……………30,000円 | ▷高知野市道院 池本 孝一……………10,000円 |
| ▷西陣道院 牧野 清……………20,000円 | |
| ▷東京都教区(東京別院新春法会)……………10,000円 | 【公認講習会】 |
| ▷亀有道院、葛飾西道院 中林 純一……………10,000円 | ▷京都府教区……………70,000円 |
| ▷豊田末野原道院 服部 俊美……………10,000円 | ▷東京都教区……………50,000円 |
| ▷亀山社中道院 新森 好博……………10,000円 | ▷滋賀県教区……………30,000円 |
| ▷亀山社中道院 大賀 杏那……………10,000円 | ▷兵庫県教区……………30,000円 |
| ▷鈴鹿中部道院 奥山 房雄……………10,000円 | ▷徳島県教区……………30,000円 |
| | ▷愛媛県教区……………30,000円 |

新春法会

高知県教区、岐阜県教区、東京都教区、徳島県教区、王寺道院 河原 弘、岡山中央道院 小池 孝忠、京都西道院 高野 實、境港道院 木村 弘史、高松木太道院 鎌田 智、高松南道院 喜田 良延、奈良西ノ京道院 久保 信哉、西船橋道院 阪井 聡司、報徳桜井道院 柏井 伸一、報徳桜井道院 室伏 江利子、防府東道院 池田 繁勝、綾南道院 加藤 義秋、岡山光南道院 田原 正晴、高岡古城道院 前野 美則、奈良宝来道院、厚木道院、大阪伊吹道院、京都向日町道院、山崎 博通、今城 隆廣、小野寺 米蔵、篠原 正、庄野 雅巳、西村 建夫、本田 演昭、田村 道明、石井 宏明、牧野 明美、特定非営利活動法人 日本青少年更生社 代表 西山 俊一郎、民宿ちぐさ 谷口 よね子

訃報

西地 勝彌 元船橋南道院・元松戸河原塚道院 元道院長、204期生、大導師正範士八段、2016年12月27日逝去、満73歳
村上 一 中曾根道院 元道院長、58期生、大導師大範士九段、2018年1月26日逝去、満84歳

☑指導者講習会開催(5月12日(土)、13日(日))

少林寺拳法を全般にわたって広く学び、教えと技法を深めていく講習会です。道院幹部としての技量、資質を高めたい方、特に将来道院長となる方は、ぜひご受講ください。詳細は、マイページなどでご案内いたします。

※13日は、開祖忌法要に参列することができます。





宗門の行としての少林寺拳法

自信

人を倒すことや他人との比較によって得られる自信は、結果や相手に左右されることになる。自分ではコントロールできないものに依存した不安定な自信と言える。本当の自信とは、結果や相手に左右されず、自己の可能性を信じられるかどうかだ。それは、ダーマの分霊を持って生まれてきたことを自覚することから始まる。修行精進して、肉体と共に自己の内面を変えていくことで本当の自信を得ることができる。

下段返より飛連蹴



金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイトで動画をご覧いただけます。

撮影／志村力 文／富田雅志 演武者／守者：倉本亘康 准範士六段 攻者：飯野貴嗣 准範士六段



SHORINJIKEMPO
少林寺拳法